

MITSUBISHI
Changes for the Better

家庭から宇宙まで、エコチェンジ



CSRの
取組

社会貢献活動
Philanthropic Activities

2010

 **三菱電機株式会社**

目次

社会貢献活動	1
社会福祉	3
地球環境保護	9
科学技術振興	15
地域貢献	17
文化・スポーツ	18
災害支援	20
あゆみ	21
アーカイブス	23
社会福祉	24
地球環境保護	26
科学技術振興	28
地域貢献	29
文化・スポーツ	30
災害支援	31

社会貢献活動



誰もが笑顔で過ごせる社会を創るために、みんながやさしさをもって新しい社会に共存できるように、三菱電機は、「技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある人間社会の実現に貢献する」という企業理念に基づいた社会貢献活動を広く国内外で行っています。

重点3分野

当社では、特に社会福祉、地球環境保護、科学技術振興の3分野に重点をおき、更に地域社会、文化・スポーツ交流の分野でもたくさんの人と出会える機会を広げています。

社会福祉

誰もがいきいきと暮らせる社会をめざして、障がい者の方への支援・基金活動や高齢者の方への医療支援など積極的に取り組んでいます。

地球環境保護

省エネルギー・省資源・リサイクルなど、企業活動の全ステージにおいて地球環境への配慮を忘れることなく、きめ細かい活動を続けています。

科学技術振興

次世代の新技术を担ってゆく若い人たちの向学心や探求心を伸ばすために、中学・高校生の表彰や奨学金支給などで応援しています。

社会貢献活動推進体制

当社では国内各事業所のみならず、国内外関係会社においても、各種社会貢献活動を推進しています。




関連情報

■ サイトプリント & ■ e-BOOK

選択したページを、表紙・目次付きのPDFで印刷したり、e-BOOKで本のようにご覧いただくことができます。

詳しくはこちら

 キー・テクノロジー

 the beauty of NATURE

 三菱アジア子ども総合祭フェスタ

トピックス

- ▶ 2010年08月19日 「三菱電機テニス日本リーグチームによる車いすテニスクリニック」について掲載しました。
- ▶ 2010年08月19日 「里山保全プロジェクト」福山地区について掲載しました。
- ▶ 2010年06月18日 社会貢献活動を定期更新しました。

地域貢献

心安らぐ地域づくりのために、良き企業であり良き市民であることをめざし、全国で展開している様々な活動をご紹介します。

文化・スポーツ

国境や言葉の垣根を超えて世界に広がる文化・スポーツの活動をご紹介します。

災害支援

災害時の支援について

あゆみ

三菱電機のこれまでの社会貢献活動の歴史をご紹介します。

アーカイブス

過去の社会貢献活動についてご紹介しています。

社会福祉

もう少しのサポートがあれば、こんなことができるのに。こんなに助かるのに。こんなに楽しくなれるのに。その“もう少し”をお手伝いして、誰もがいきいきと暮らせる社会をめざして・・・。

障がい者の方への支援・基金活動や高齢者の方への医療支援などさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

SOCIO-ROOTS(ソシオルーツ)基金

1992年に開始した「三菱電機SOCIO-ROOTS(ソシオルーツ)基金」は、社員からの寄付と同額を会社が拠出するマッチングギフト制度です。善意の寄付を倍にするこの基金には毎年1,000名以上にのぼる社員が参加しており、2010年3月時点で累計約1,300件、金額にして5億5千万円を社会福祉施設などに寄付しています。

近年では、社会福祉に環境保全要素が加わった寄付案件や、災害支援にも広がりを見せております。2007年度には、会社表彰金に三菱電機SOCIO-ROOTS基金を適用して、(財)オイスカ(主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開している国際NGO(非営利組織))のマレーシア「子供の森」計画に支援を行い、現地での植林活動にも参加しました。



現地(マレーシア・サバ州)での植林活動



(財)オイスカへの贈呈式

また2009年度には、社会福祉活動において初めて「安心・安全」の視点でマッチングギフト制度を適用し、大和市社会福祉協議会を通じて、大和市の小学一年生に防犯ブザーを配布していただきました。

三菱電機は今後も社員の善意を大切に、地道で地域に根ざした活動を展開してまいります。



大和市社会福祉協議会での贈呈式

街路樹剪定ボランティア活動(群馬)

MGV会(三菱電機群馬ボランティア会)では、会社前道路の歩道に植栽された街路樹の剪定を毎年行っています。これは、MGV会発足の1998年以前から行われていた行事を引継ぐ形で実施し、MGV会としての実績は12年目になりました。

2009年は、6月27日(土)に65名が参加して、街路樹の金木犀78本の剪定を行いました。OBの「菱の実会」メンバー26人の協力を得て、2時間30分ほどで金木犀並木はすっきりとしました。10月にはたくさんの花を咲かせて、香りを楽しませてくれることを思うと、作業の疲れも癒されます。今後も地域貢献として、この活動を続けて行きます。



障がいのあるなしにかかわらず一緒に活動を(米国)

三菱電機米国財団(MEAF)は、若年障がい者を支援している団体(The Corps Network)を過去3年間にわたり支援しています。この団体は、若年障がい者がリーダーシップや職業能力を養えるよう公共サービスに参加する機会を提供しており、試験的なプログラムも行っています。プログラムでは、障がいのあるなしにかかわらず、若者達と一緒に国営林や国立公園で道の整備やキャンプ地のユーザー調査をしたり、市街地で公園の手入れや住宅の修繕を手伝ったりしています。

MEAFの支援によりThe Corps Networkはこのプログラムのツールキットを開発し、全米の143地域において公共サービス団体が採用しています。



米国三菱電機 室内ゴルフ大会2009(米国)

全米の米国三菱電機各社では、社員や顧客、販売納入会社の方達が何百人も参加し、2009年で2年目となる室内ゴルフ大会が開催されました。この活動は、若年障がい者の教育や放課後プログラムを支援するための資金集めを目的としています。2009年は9社がこのイベントに参加し、会社の廊下や工場の床にミニチュア版ゴルフコースを制作しました。販売納入会社の方々にコースのスポンサーになってもらい、大会への参加費から資金を集めました。



若年障がい者の工場見学(米国)

米国イリノイ州のヴァーノンヒルズにあるMitsubishi Electric Automation (MEAU)は、過去3年間にわたり、若年障がい者の工場見学を実施しています。この活動は、毎年10月の「障がい者と交流する日」に実施されています。MEAUの社員がモンタナ州特別文教地区(SEDOL)の若者に付き添い、工場での生活がどのようなものかを教えます。多くの若者にとって、工場の中を見るのはこの時が初めてであり、職業について知る良い機会となっています。

この活動が認められ、MEAUは2009年6月にSEDOLから「エンプロイヤー・オブ・ザ・イヤー」の表彰を受けました。



障がい児童の野球チーム「ミラクル・リーグ」(米国)

障がいを持つ子どもの多くにとって野球をすることは難しく、「ミラクル」が必要です。しかし今、南ペンシルベニアの野球チーム、ミラクル・リーグとMitsubishi Electric Power Products, Inc. (MEPPI)が、子ども達の夢をかなえるべく支援を行っています。

ミラクル・リーグは5歳から18歳の障がい児童が属する野球チームの協会で、米国やカナダ、プエルトリコに120もの野球場を持っています。野球場の表面はゴム敷きしており、車椅子が動きやすいようになっています。児童にはそれぞれ「パートナー」がいて、大きいボールや軟らかいボールを投げてもらったり、ベースを回るのに車椅子を押してもらったりなど、試合に参加するのに必要な手助けをうけることができます。そして試合に勝ち負けはなく、全員が得点をあげます。

MEPPIの社員と米国三菱電機財団、そして地元の球団であるピッツバーグ・パイレーツなどからの寄付により、2009年5月にミラクル・リーグの新しい球場「フィールド・オブ・ドリームズ」を設立することができました。MEPPIは、これからも子ども達の夢をかなえるために支援をしていきます。



ピッツバーグ・パイレーツのフレディ・サンチェス氏が、プレイヤーの児童に挨拶(米国ペンシルベニア、ピッツバーグ近隣にあるミラクル・リーグの新球場「バルフィールド」の開幕日にて)。

(Copyright ©, Pittsburgh Post-Gazette, 2009, all rights reserved. Reprinted with permission.)

近隣孤児院への支援(インドネシア)

2009年9月15日(火)、Mitsubishi Electric Automotive Indonesia社は、「愛と幸せを孤児と分かち合おう」活動を実施しました。この活動の一つとして従業員が寄付をし、さらに会社も寄付を上乗せし、会社近隣の孤児院が建設機材を購入できるよう小切手を贈りました。

60人の孤児が暮らす簡素な孤児院には、共同のトイレと浴室が一つしかありませんでした。そこで、さらに4つのトイレと浴室を増設したいという要望を受け、今回は建設機材を購入するための支援を行ったのです。他には、子ども達の何人かを夕食会に招待すると共に、普段はあまり買うことのできないお菓子や食べ物を買えるよう、全員におこづいをプレゼントしました。



先住民の学校への地域奉仕活動(マレーシア)

2009年8月15日(土)、Melco Sales Malaysia社は、クアラルンプール近郊のやし油栽培地域の小学校で奉仕活動を行いました。この学校へは先住民族のテムアン族が通っていますが、残念ながら子ども達は、十分な栄養とバランスの取れた食事や美味しいものを摂ることが難しい状況にいます。

今回、15人の従業員で構成されるチームを1日派遣し、教室や図書館、庭の清掃といった活動を行いました。子ども達が楽しめるイベントやスポーツを行ない、プレゼントも渡しました。また従業員は、子ども達が大好きなアイスクリームコーナーもあるビュッフェスタイルの食事会も開きました。お返しとして子ども達からは、伝統的な手芸織物や、竹製の笛の作り方を教えてもらい、昔ながらの演奏で歓待されました。最後には子ども達、親、先生と従業員が一緒になって踊り、忘れられない1日となりました。

またより多くの支援を得るために、従業員や事務所を訪れるお客様に植木鉢の販売を行い、1ヶ月分の給食費や文房具、教材、本、制服の購入費を寄付しています。



身障者用エレベーターの寄付(マレーシア)

Ryoden (Malaysia)社は、セレンバン・センタービル内の慈善団体「ビューティフル・ゲート」にエレベーター1台を寄付しました。身障者の慈善団体へエレベーターを寄付することは会社にとって初めてのことで、エレベーターの利用を待ち望んでいた利用者にとって、今回の寄付は大きな助けとなりました。エレベータを設置するまで最終的に約5年も掛かりましたが、2009年始めに正式に贈呈することができました。



タイ三菱電機各社によるボランティア活動(タイ)

毎年、三菱電機タイ財団の支援・協力のもと、タイの三菱電機各社は合同で奉仕活動を行っています。

2009年度の活動としては、財団がチャチュンサオ地方にある学校を選び、2009年11月21日(土)に各社の従業員が集まって、校舎のペンキ塗りや校庭の清掃を行いました。この学校には、幼児から高校生まで合わせて183人の生徒と9人の先生がいます。今回の活動では教室4つのペンキ塗りと遊具の修理を行いました。作業が終了した時には、生徒も先生もまるで新しい学校の様だと喜んでいました。



玉蘭ケアセンターでのボランティア活動(台湾)

2010年1月13日(水)、三菱電機台湾の従業員13人が台北の玉蘭ケアセンターを訪問しました。玉蘭ケアセンターは、日本語での生活を望んでいる高齢者向けのデイケア施設です。ボランティアは、日本語の詩や本を朗読し、利用者と一緒に感想を言い合ったり、ゲームをしたり、童謡を歌ったりしました。利用者の方々は多くの話を聞いて喜んでおられ、三菱電機台湾のボランティア活動が継続されることを望んでいました。このプログラムは、高齢者の支援を行うだけでなく、三菱電機台湾の従業員が日本語を勉強する良い動機付けとなっています。



癌と闘う子ども達を支援(ドイツ)

2009年12月、三菱電機の欧州半導体ビジネスグループは、癌と闘う子ども達とその保護者を支援する施設へ寄付をしました。当施設は、闘病中の子ども達の家族が一時的に宿泊する慈善施設であり、エッセン市にある病院の近くにあります。複数の談話室と18のゲストルームがあり、遠くからやってくる多くの保護者にプライバシーと安心感を与えています。「子ども達の病気の治療に一番大切なことは、親がそばにということです。ここでは利用者が子ども達のそばで元気を取り戻し、明日への鋭気を養っています」と施設の代表者は話されていました。



地元西ラティンゲンに貢献(ドイツ)

Mitsubishi Electric Europe B.V.は、この度「ラティンゲンーウエストファミリーセンター」の改修工事に寄付いたしました。同センターは、1987年から地元に住む家族とその子ども達の大切な交流の場、相談所としての機能を提供してきましたが、老朽化のため緊急の改修が必要になっていました。今回、西ラティンゲンに拠を構え地域支援に重きを置く企業としてその支援を行いました。この改修には全国規模の児童擁護団体「キンダーシュツツブンド」の現地支部がボランティアとして参加し、センターは2009年2月にリニューアルオープンいたしました。今回の活動の成果を受け、今後も「キンダーシュツツブンド」と三菱電機による協働プロジェクトが計画されています。



米国三菱電機財団

1991年2月に基本財産1,500万ドルで設立し、2006年に15周年を迎えました。

これまで、940万ドル(約9億円)を超える寄付を実施しており、米国の障がい者支援のための多彩な活動を展開中です。

米国三菱電機財団 (MEAF www.meaf.org) 



オバマ大統領(当時知事)と2008年度MEAFインターンの学生

「あしながPウォーク10」に参加しました！(北陸)

2009年11月8日(日)福祉活動の一環として、地球規模の遺児支援のボランティア活動「あしながPウォーク10」の金沢コースに、石川県下の三菱グループで構成している「石川菱友会」とともに総勢336名が参加し、陸支から子供を含め15名が参加しました。当日は金沢中央公園を出発し、金沢城近辺の約10kmを2時間かけてウォーキングしながら、日頃の運動不足を解消するとともに爽やかな汗をかきました。この活動は参加費が「あしなが育英会」に寄付され教育支援活動費用として活用されるというものです。私たち自身がフィランソロピーについて考える良い機会となり、今後も継続して参加していきます。



障がい者ハートフル海外旅行事業(稲沢)

稲沢地区では、身体・知的障がい者の方と、そのご家族の方を対象とした「ハートフル海外旅行」を移動手段や現地での観光、食事、宿泊ホテル等、障がいをお持ちの方に安心して旅行を楽しんでいただける様に考慮したプログラムを組み、全行程に当社社員が同行してフルサポートを行います。

障がい者がネックになって、一般の海外ツアー旅行に参加しづらい方も、僅かな自己負担額で安心して海外旅行を楽しめるということで、地域の皆様からもご好評をいただいています。

例年10～20名の方をハワイ、シンガポール、グアムにご招待しており、2009年12月現在、累計での招待者数は220名を超えました。



APEXデイケアセンターとの観覧車乗車ボランティア(シンガポール)

APEXデイケアセンターは、身体障がい者のお年寄りを1日預かり、リハビリテーションを行う施設です。継続的なリハビリが必要な恵まれない人が集まり、社会的な交流を持つことも目的としています。

旧正月の2009年2月6日(金)、20人の三菱電機アジアの従業員達が、30名のお年寄りを、アジア観光で最大のアトラクションでもあるシンガポールフライヤー(観覧車)にお連れしました。参加された全員の方が初めての乗車体験でした。いつも乗りたいと思っていた観覧車に乗ることができ、皆さんに、とても喜んでいただきました。

また赤いお年玉袋(アンパオ)を皆さんにお渡しし、旧正月に縁起を担ぐこともできました。



古着リサイクル活動(台湾)

2010年の旧正月に、三菱電機台湾は社内に古着のリサイクルBOXを設置し、「台北市心理復健家族総合協会」(台北市知的障がい者リハビリテーション協会)に古着を寄贈しました。

当該協会は知的障がい者の社会復帰を支援しており、古着リサイクルは社会的自立支援の一つのプログラムとなっています。

三菱電機台湾の従業員は、この活動を通じ、知的障がい者の自立を支援すると共に、環境を意識した活動を行っています。



地球環境保護

人間ばかりでなく自然界にあるものがいっしょに呼吸している地球・・・。

省エネルギー・省資源・リサイクルなど、企業活動の全ステージにおいて地球環境への配慮を忘れることなく、21世紀のグローバル企業としてきめ細かい活動を続けています。

社員参加型プログラム「里山保全プロジェクト」

当社は、2007年10月より「里山保全プロジェクト」をスタートさせました。「地道と継続」をキーワードに、これからも各地域の状況に合った自然回復活動を段階的に展開していきます。社員自らが汗をかき、安心・安全な地域づくりに参画することで、地域の方々とコミュニケーションを深めていきたいと考えています。



本社地区では、住友林業様ご協力のもと、富士山の自然林復元活動を続けています。会長、社長ほか会社幹部も積極的に参加しています。



各地区の活動

名古屋地区 | 神戸地区(兵庫) | 中津川地区 | 静岡地区 | 北伊丹地区 | 福山地区 | 本社地区(東京)

初めての里山保全活動を体験！（北陸）

石川県下の三菱グループで構成している「石川菱友会」の社会貢献活動として、2009年8月30日（日）に、総勢160名、北陸支社からは16名が参加して能美市内でサクラ・コナラ植栽地の下草刈りを行いました。天候にも恵まれ、地元緑化推進委員の方のご指導の下で使い慣れないかまで草刈りを行い、とても貴重な体験をしました。



少しの「自分時間」の活用で社会貢献を！（九州）

2009年5月31日（日）、福岡市主催の大規模清掃活動「ラブアース・クリーンアップ2009」「地球にやさしい清掃活動」に、三菱電機グループとして関係会社13社（58名）を含む総勢121名が参加しました。年1回でも休日の『自分時間』を少し使い、社会に役立つことに取組もう！という気持ちを大切に今後も継続していきます。



マングローブ林の保全と植林活動（タイ）

タイではマングローブ林の減少により、カニや魚、鳥といった、マングローブ周辺に生息する生物に影響が出るだけでなく、深刻な土砂崩れも引き起こされています。政府と民間企業は現状の悪化を止めるためにも、喫緊の対策が必要だと認識しています。

こうした背景を受け、2009年6月5日（金）の環境デーに、Mitsubishi Electric Thai Auto-Partsは、自治体や教育機関、民間企業からのボランティアと一緒に、チョンブリ州でのマングローブ植林活動に参加しました。今回は1,800本ものマングローブが植えられました。これは成木で換算するとおよそ1,800トンものCO₂を削減することになります。活動中、参加者は自治体職員からマングローブの恩恵について学び、更なる活動へのやる気を高めていました。



植樹をして緑地を増やそう（タイ）

Mitsubishi Elevator (Thailand) は、地域の緑地増加プロジェクトを立ち上げました。「1台の昇降機で、1本の木を」のスローガンのもと2009年より始まり、会社周辺地域の緑地増加を目的としています。

初年度には999本の木が、会社近くのバンナトラッド高速道路の中央分離帯部分に植樹されました。毎年、販売台数分の木を植えることで、今後もこのプロジェクトを継続していきたいと考えています。



森林公園での清掃活動(ブルネイ)

2009年12月12日(土)、Ryoden Malaysiaのブルネイ支社は、国内にあるプキ・シャーバンダル森林公園で清掃活動を実施しました。この公園は70ha以上のなだらかに起伏する土地からなり、整備された小道が縦横に走っています。

参加者は従業員とその家族で、この時に集められたゴミは全てごみ収集センターで適切に処理されています。このような活動を通じて、従業員や、地元そしてブルネイの人々がより健康に生活できる環境づくりを推進しています。



絶滅危惧種のウオンバット保護施設にエアコンを寄付(オーストラリア)

Mitsubishi Electric Australiaは、けがをしたり住む場所を奪われたりした野生動物の保護やリハビリ、そして再び自然に帰す活動を行っている非営利団体(AACE Inc)を支援しています。

AACEは、他にもクイーンズランド州ではたったの115頭しか生存していない、ウオンバットのような絶滅危惧動物の保護活動にも深くかかわっています。最近では、クイーンズランドのマールボロにある専用の施設で、このウオンバット4頭を保護しています。

Mitsubishi Electric Australiaは、この保護施設にエアコン2台を寄贈しました。施設内では自然界のウオンバットの巣に近い、夏には22度、冬には24度の適温を保つことができます。



ピーター・ブルック氏とタイラー・モートン氏。ウオンバットと一緒に。

県庁前公園と松川ペリの美化活動(北陸)

2002年から社会貢献活動の一環として富山県下の三菱グループで構成している「富山三菱会」が中心となり、毎年清掃美化活動を実施しています。今年度は2009年6月20日(土)に開催し、参加企業35社、約120名が参加し、北陸支社からは15名が参加しました。富山市の中心街を流れる松川ペリ周辺と県庁前公園の落ち葉や煙草の吸殻、空缶を拾い集めるなど、地域の美化活動に貢献し、清々しい汗をかいた一日でした。



おおた芝桜祭り太田会場整備ボランティアの紹介(群馬)

太田市北部運動公園で開催された「おおた芝桜まつり」に、MGV会(三菱電機群馬ボランティア会)として参加しました。2008年の全国都市緑化群馬フェア(3月末~6月始の開催)の太田会場の丘は、芝桜が見事に咲き広がりました。

2009年4月11日(土)に、大勢の来場者で賑わう中、13人が参加して会場運営ボランティアを行いました。ピンクや白の花が絨毯を敷詰めたように咲きそろう、花の甘い匂いと共に見事な景観の中での清掃作業は、疲れを忘れるほどでした。



みつびしでんき親子野外教室 天王山「樹木の大切さを学ぼう」(京都)

京都地区では2009年10月31日(土)に「みつびしでんき親子野外教室」を開催しました。参加者は社員やその家族、そして地域のご家族(お子様)を合わせた20名です。4回目を迎える今回は、JR山崎駅から大山崎美術館までの散策コースを歩きました。道中、きれいな小川でサワガニを発見したり、大きなクスノキを子ども達が手をつないで囲み、その幹の大きさを体感したりしました。他にも、多羅葉の葉っぱの裏に文字を書き、昔の人々の葉書を体験し楽しみました。大人も子どもも、楽しく自然を満喫し、樹木の大切さを学びました。



まちかどクリーン作戦(兵庫県神戸市兵庫区)

阪神大震災の街を元に戻そうと1997年から兵庫区全域で進められている活動です。神戸地区の事業所ではJR兵庫駅を朝7時ごろに出発し、会社までの約2kmを約30分かけてゴミ拾いをしています。年3回(1月、4月、9月)で、労働組合と会社の合同開催で平均1回約100名の方が参加しています。路上に落ちている吸殻、空き缶、ペットボトルなどのゴミを拾っています。



「河川草刈り&工場周辺清掃」(熊本)

熊本工場では、工場近隣の「上生(わぶ)川」の草刈り及び工場周辺の清掃作業を毎年春に行っています。2010年は3月27日(土)に開催し、関係協力会社および地域の方々も参加いただき、総勢160名で実施しました。

川の土手には草が生い茂り、作業前は川の流れも見えない状態でしたが、2時間程の草刈りで、きれいな川の流れが戻ってきました。作業終了後は、爽やかな春の風を感じながら、構内に咲き誇る80本の桜の下で親交を深めました。

この活動は29年間継続しており、年々参加者数が増加しています。



上海植樹活動(上海)

三菱電機グループとして、中国香港拠点25社より約80名が参加し、上海で植樹活動を実施しました。CSRの一環として中国における企業市民としての責務を果たすだけでなく、上海地域の関係者と一体となって活動することで、中国地域社会への貢献と環境保護を実践しました。



<「里山保全プロジェクト」の各地区の活動>

みんな元気な森づくり隊(名古屋)

名古屋製作所の里山保全活動は、2007年6月から美化活動、森林整備、自然観察・工作教室などを実施しています。2009年8月29日(土)に、東谷山※1で「親子で楽しむ自然観察会in東谷山」と題した3回目の親子参加型イベントを開催し、子供13名を含む46名が参加しました。愛知守山自然の会※2の森林インストラクターの方に説明をいただきながら、夏の東谷山の植物を観察し、その後、竹を材料にした工作教室をしました。完成した水でっぽうで一斉放水。飛んだかな！自然に向い合う子どもたちの真剣なまなざしがとても印象的でした。

今後も継続して、たくさんの方に自然観察などを通じて自然との共生を体験していただき、環境に対する意識を高めていただきたいと思います。

※1 東谷山:名古屋製作所が愛知県と締結した「企業との森づくり協定」に基づき里山保全活動の拠点としている名古屋市守山区にある約5haの県有林。

※2 愛知守山自然の会:名古屋製作所の里山保全活動に理解を示していただき、活動の企画・実施に関し支援・協力いただいている団体。



「社会貢献同好会」森林ボランティア(兵庫)

2007年12月に社会貢献同好会を立ち上げ、自主参加の活動メンバーを募り2009年2月現在で55名の登録です。活動地はJR福知山線の草野駅から徒歩15分にある兵庫県篠山市油井地区の共有林です。活動は年7回(1月、2月、3月、5月、6月、11月、12月)で、平均1回約20名。地元、行政、当社で「油井鎮守の森を守る会」を発足し、定期的に活動についての打合せをしています。

9:30集合で午前中の約3時間を森林整備活動、午後は森で観察や工作を楽しんでいます。森林整備活動は40年間放置された自然林を「子供たちが遊べる広場づくり」を目指して、間伐、遊歩道整備を行っています。

都会とは全く違う空気と森林浴、そして木々を整備することでメンバー全員が森のパワーをもらっています。



環境ボランティア「森のめぐみ塾」(中津川)

中津川地区では、MVクラブ(三菱電機(株)中津川製作所ボランティアクラブ)が中心となり、県立公園「根の上高原・つつじ園」にて森のめぐみ塾(里山保全活動と子どもたちへの環境塾)を立ち上げました。

2008年6月に中津川市および根の上高原観光保勝会と「根の上 生きた自然公園」づくり協定を結び、市や地域の方々と協力しながら、毎回50名程度の参加者が植生調査や下草刈りに汗を流しています。また、親子での「野外教室」や自然にあるものを使って遊ぶ「森のめぐみ大会」も同時開催し、参加者全員で自然の大切さを学んでいます。

今後も「継続」をキーワードに、地域の方々や地元団体と協力しながら、フィールドである県立公園「根の上高原・つつじ園」が美しくなり、県内外から多くのお客様を迎えられることを目標に活動を進めます。



安倍川清掃ボランティア(静岡)

静岡地区では、静岡市環境局が企画した「河川環境アドプトプログラム」(河川との縁組)に参画し、2003年より安倍川清掃ボランティア活動を実施しています。今回で19回目を数える安倍川清掃ボランティア活動を2010年4月24日(土)安西橋上流広場(安倍川西側)で実施し、97名(内子ども15名)が参加し、累計参加者が1,000名を突破しました。

今回は清掃活動に先立って、社員とその家族を対象に「みつびしでんき野外教室」を開催し、31名が参加しました。

環境に対する意識向上と、環境をよりよいものに変えていく行動力醸成のため今後ともより多くの従業員が参加できるよう取り組んでいきたいと考えています。



「瑞ヶ池公園の桜を育てる会」(北伊丹)

1986年に設立した「瑞ヶ池公園の桜を育てる会」は、伊丹市の桜を守り育てるため、近隣住民の方と一緒に社員22名から活動を開始しました。その功績が認められ、2009年4月13日には、憲政記念館で財団法人日本さくらの会より、日本最高峰の「さくら功労者」として表彰されました。瑞ヶ池周囲には、ソメイヨシノ・山桜・八重桜など、約600本の桜が植樹されております。現在は会員50名で枯枝剪定・施肥・清掃活動などをし、伊丹市緑化協会及び近隣の自治会長などの協力のもと活動中です。



「神辺四季の森づくり」(福山)

2010年7月4日(日)に、以前より準備を進めていた福山製作所の「里山保全活動」がスタートしました。きっかけは、昨年12月、福山市神辺町の御領山で開催された「神辺四季の森づくり」事業に社員・家族で参加し、1haに「スーパー松」約1,000本(内当所は300本)の植樹を手伝ったことです。このフィールドは、広島県内でも有数の緑豊かな松林地帯でしたが、近年松枯れで荒廃し、森林の機能が失われつつあります。そこで、松枯れに強いとされる「スーパー松」の苗木を育て、災害に強い緑豊かな森林に再生しようと、神辺町下御領生産森林組合が中心となり、広島県東部森林組合や地区の自治会、小学校、消防団などと一緒に活動を推進しています。

記念すべき第一回目の活動は、昨年末に植樹した一角(約4,000m²)での下草刈りでした。当日は、雨の天気予報を参加者全員(31名)の熱気で吹き飛ばし、青空ものぞく草刈日和となり、いい汗をかくことができました。

今後も、定期的の下草刈りを行い、私たちが植樹した松の成長を見守っていきます。



富士山・育林ボランティア活動(東京)

1996年の台風被害を受けた国有林の再生を目指すプロジェクト「まなびの森」(住友林業主催)活動へ参加しています。自然との共生を体感するとともに、職場の同僚、家族、友人など仲間を集い、富士山の雄大な自然の中でとてもいい汗を流す爽快さは、普段経験できないものです。



科学技術振興

進歩し続ける科学技術、次世代の新技术…。

それらを担ってゆく人たちの向学心や探求心をできるかぎり伸ばしてあげたい…

そんな想いで、中学・高校生の表彰や奨学金支給など、若い人たちの科学を学んでゆく気持ちを応援しています。

小・中・高校向け理科教育支援プロジェクト

将来の電機業界を志望する理工系学生を育てていくために、2009年度から人事部の新規施策として「小・中・高校向け理科教育支援プロジェクト」をスタートさせました。いわゆる若者の「理系離れ・理工系離れ」の傾向を食い止めるべく、総合電機メーカーとして一役買おうという、地道な活動です。

具体的な活動内容としては、小・中・高校での「太陽電池の働き」、「熱の伝わり方」、「モーターの原理とその応用」、「音の性質」、「立体視」などをテーマとした出前授業や理科実験などを行っています。「理科大好き人間」を育てたいという熱い思いを胸に関係者一同頑張っています。



「子ども科学工作教室」紹介(飯田地区)

地域内の企業11社がボランティアで集まり、飯田市美術博物館を会場に「子ども科学工作教室」を運営しています。

この教室は、子ども達に、ものづくりの楽しさや、科学への興味を持ってもらおうと1992年からスタートしたもので、現在も続いています。

当社では、班長自主研究会メンバーが中心となり、工作教室スタート時から運営に参画しています。工作教室の内容は、地域内の小学4年生から6年生を集め、1年間4回のものづくり教室「三極モーターカー・天体望遠鏡・ソーラーカー・FMラジオ」を行っており、いづれの教室にも指導員を派遣するほか、三極モーターカーでは運営幹事を努め、また、ソーラーカーでは、製作開始前に講師として太陽発電の原理について説明をおこなっています。



将来の技術者育成活動 地元高等学校の研修サポート(中津川地区)

2008年度より、将来の技術者育成として、近隣高等学校理数科の研修サポートを行なっています。学校側からの要請に対し、当社から技術の紹介・提案を行なったところ、「ロスナイの熱回収計算と効果の検証」及び「電機製品の分解学習」がテーマとして選ばれました。

「ロスナイの熱回収計算と効果の検証」では、空気線図の読み方、熱知識、電気料金の仕組みなどが習得できると共に、省エネに関心を持つことができ、「電機製品の分解学習」では、構造が何故そうになっているか考えることで、技術者の視点からモノを見る能力を育成することができます。

また、研修サポートとして、実験用治具や製品を持ち込み、実験手順についての指導や、学生からの質問に対し回答などを行っています。

日本の製造業が世界の中で勝ち残るためにも、将来の技術者育成は重要なことであり、微力ながら貢献していきたいと思っております。



タイ三菱電機財団「奨学金プログラム」

1995年から開始したプログラムで、毎年3つの工学系大学の学生45名に対し奨学金を支給しています。学業優秀ながら、家からの仕送りが少なく学業に支障がある学生が対象で、タイの科学技術の発展の一助となっています。



近隣小学校への「環境出張教育」実施(鎌倉)

鎌倉製作所では、昨年度から引き続き地域への社会貢献活動として、2009年12月18日(金)に近隣小学校5年生67名を対象に、社員2名が先生となり「環境出張教育」を実施しました。鎌倉製作所を知ってもらうため、2009年に打ち上げた温室効果ガスを観測する「いぶき」や、宇宙ステーションに物資を運ぶ「HTV」をはじめとした人工衛星の紹介をしました。また小学生の環境マインド育成を目的とし、社員ひとりひとりが取り組んでいる様々な取り組みも紹介しました。例えば、「必要なところで、必要なときに、必要な量だけ」をキーワードにした省エネ運動や、生産で使う水の再利用などの3R(リデュース、リユース、リサイクル)運動、工場周辺や海岸の清掃などの社会貢献活動です。児童からは、活発な質問が出され、活気あふれる授業になりました。今回の授業で、環境に対する芽を育むことが出来たと思います。



地域貢献

地域とのコミュニケーションは企業と市民が同じ社会で生きてゆくために大切です。

心安らぐ地域づくりのために、良き企業であり良き市民であることをめざし、社員ひとりひとりの自発性・創意を基盤に、ボランティア活動や独自のコミュニケーション活動を全国の事業所で展開しています。

タイ三菱電機財団「小学校への昼食支援プログラム」

1999年1月より開始したプログラムで、タイ文部省より推薦された小学校30校に対して毎年各1万バーツを寄付しています。

小学校はこれをもとに肥料や飼料を購入して、野菜の栽培や家畜を飼育の上、貧困のために昼食が充分にとれない小学生の給食に充てています。



「MVクラブ」の地域活動(中津川)

三菱電機中津川ボランティアクラブ(通称MVクラブ)は、今年も市内養護施設の夏祭りのお手伝いに引っ張り綱でした。

3カ所の施設で延べ30人強が五平餅や綿菓子、かき氷等の模擬店を出店し、どこも大盛況でした。MVクラブは今後も地域社会への貢献に取り組んでいきます。



飯田工場で収穫したりんごを福祉施設に寄贈(中津川)

毎年暮れに、飯田工場の構内で収穫したりんごを地元(中津川・飯田市)の社会福祉施設に寄贈しています。

昨年は猛暑と相次ぐ台風に見舞われ不作を心配しましたが、色付きなど生育状況は例年通り。たくさんのにんごを寄贈でき、多くの方々に喜んでいただきました。



「長岡京ガラシャ祭2009」町衆祝い行列参加(京都)

長岡京市の「長岡京ガラシャ祭」は、1992年に開始された市民まつりです。毎年11月に開催され、2009年で第18回目を迎えました。京都地区では、地域に密着したコミュニケーション活動の一環として、初回から100名を超える社員が継続して参加しています。神輿行列においては、三菱液晶テレビ「REAL」を取り込んだ特大の『REALみこし』で祭りに彩りを添え、その場を大いに盛り上げました。



文化・スポーツ

毎日を楽しんでくれるもの、生活に喜びをくれるもの。
文化やスポーツ活動は、国境や言葉の垣根を超えて広がっていきます。
人間性・創造性・グローバル性…。

三菱電機テニス日本リーグチームによる車いすテニスクリニック

2010年7月19日(土)に、三菱電機テニス日本リーグチーム「ファルコンズ」主催で、初めて車いすテニスクリニックが開催されました。兵庫県三木市のブルボンビーンズドームで催された当イベントへは、兵庫県など関西からの車いすテニス愛好家(13名)を含む合計34名が参加し、一緒に心地よい汗をかきました。

当クリニックは、日本テニス協会ナショナルコーチ及び兵庫県車いすテニス協会のご支援の下、ファルコンズの日本リーグ参戦11年目の節目として社会貢献活動を実施したものです。

今回のクリニックで、テニスを通じ、健常者と障がい者がコミュニケーションを図ることができ、互いの理解を深めることの大切さを学びました。

今後も、このイベントを定期的で開催していきたいと思います。



「バドミントン・サマー・クリニック in 北海道別海町」

一般の方や中学生・高校生を対象に、伊丹事業所バドミントン部によるクリニックを開催。受講者は日本リーグ活躍のコーチ・選手の実力を体感し、直接指導に感激の様子でした。町長をはじめ関係者から賛辞、謝意を受け有意義な社会貢献活動となりました。



高校生テニスクリニック(鎌倉)

三菱電機テニスチームは日本のトッププロも参戦するテニス日本リーグに加盟して活躍しています。

チームに所属するプロ選手や社員選手が工場にあるテニスコートを利用して、鎌倉地区にある公立高校の生徒100名にテニスクリニックを実施しました。


プロ選手のサービスリターンにチャレンジなど楽しいイベントに生徒達は大喜びしてくれました。



バスケットボール・クリニック(名古屋)

三菱電機男女バスケットボールチームは日本リーグ、全日本総合選手権大会(オールジャパン)他において、日本のトップレベルチームとして活躍しています。

また、各地での小・中学生対象バスケットボール教室にコーチ・選手を定期的に派遣し、バスケットボール普及のために積極的に活動しています。

[三菱電機バスケットチーム公式ページはこちら](#) 



パラオ音楽祭への協賛(スペイン)

欧州三菱電機・スペイン支店は、数年間にわたり、将来有望な若手音楽家を支援しています。ユネスコの世界遺産にも登録され、世界的に一流のコンサートホールであるバルセロナの「パラオ音楽堂」で毎年行われる、若手音楽家の登竜門「パラオ音楽祭」を協賛しています。

予選を勝ち抜いた出場者の中から、本選で優勝者が決められ、賞金が授与されます。しかし、パラオ音楽祭に出場すること自体が音楽の世界においてプロの道へのステップと考えられており、現実的には出場者全員が優勝者であるような音楽祭です。



若手音楽家の育成(フランス)

音楽を通じて我々の生活を魅了してくれる人材は、音楽のキャリア形成を支援したり激励するに値する人達であるとの考えから、欧州三菱電機は、若手音楽家を発掘し、才能を伸ばしていくことを主目的とした独立系音楽レーベル「Intrada」(イントラーダ)と協賛関係を構築しています。

そして、年間1枚のCDを出すことを若手音楽家に約束し、また素晴らしい音楽と有能な人材を求めている鑑賞者を招待して、一流のコンサートを開催しています。



災害支援

中国青海省大地震災害における当社支援内容について(中国)

三菱電機株式会社(執行役社長:山西 健一郎)は、2010年4月14日に発生した中国青海省大地震被害への支援として、三菱電機グループで総額1400万円の支援を行うことを決定しましたのでお知らせします。

被害を受けられた方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を三菱電機グループ一同、心からお祈りしております。

チリ地震災害における当社支援内容について(チリ)

三菱電機株式会社は、2010年2月27日(土)に発生したチリ地震被害への支援として、三菱電機グループで総額500万円の支援を行うことを決定しましたのでお知らせします。

被害を受けられた方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を三菱電機グループ一同、心からお祈りしております。

スマトラ島沖地震の被災者支援(インドネシア)

2009年9月30日(水)に発生したスマトラ島沖地震の被災者へ、Mitsubishi Electric Automotive Indonesiaは義援金をおくりました。この義援金により、家を失った被災者に仮設住宅を提供することができます。2010年1月8日(金)までに、約1,005戸の仮設住宅が西スマトラ政府へおくられています。

今回、Mitsubishi Electric Automotive Indonesiaはおよそ5,000ドルを寄付し、従業員からもおよそ200ドルの寄付が寄せられました。

台風8号の被災者支援(台湾)

2009年8月、台湾は台風8号(マラコット)に襲われ、その暴風雨による大規模な土砂崩れと深刻な洪水に見舞われました。台湾南部では、土砂崩れにより村がまるまる一つ埋まってしまった事例もあります。従業員達から寄せられた金額(自分の一日分の給料と同額を寄付)を合わせて、三菱電機台湾はおよそ106,000,000円をおくりました。また被災者のために、損傷したエアコンやCNC製品(コンピュータ数値制御装置)の低額での修理を申し出ました。

あゆみ

1990年9月	社会貢献活動委員会設置
1991年2月	米国三菱電機財団設立
12月	タイ三菱電機財団設立
1992年4月	マッチングギフト制度「三菱電機SOCIO-ROOTS基金」設立
1993年7月	経済広報センター「企業広報賞」受賞
1994年4月	中津川製作所ボランティアクラブ(MVクラブ)立ち上げ
1996年4月	稲沢製作所ボランティアクラブ(MIVクラブ)立ち上げ
4月	ヘルスケア・ボランティア休暇制度導入
9月	米国環境保護庁(EPA)Best of the Best賞受賞
1998年6月	群馬製作所ボランティアクラブ(MGVクラブ)立ち上げ
1999年1月	タイ三菱電機財団「小学校昼食支援プログラム」スタート
2000年5月	米国三菱電機財団「2000年度ヘレン・ケラー実践賞」受賞
9月	日本赤十字社紺綬褒章受賞
12月	本社手話ボランティアサークル(遊話ダイヤサークル)立ち上げ
2001年9月	米国同時多発テロ被災者救済・復旧支援
2002年8月	中国青海省情報センター寄贈
2004年7月	昭和天皇記念献血推進賞(日本赤十字社)受賞
11月	新潟県中越地震被災地支援

2005年1月	スマトラ沖地震被災地支援
10月	米国ハリケーン被災地支援
2006年8月	ジャワ島地震被災地支援
2007年4月	能登半島地震被災地支援
7月	新潟県中越沖地震被災地支援
10月	愛知県「企業の森づくり」事業の協定第一号締結
2008年3月	「三菱電機SOCIO-ROOTS基金」寄付金累計5億円突破
3月	兵庫県丹波県民局「企業の森づくり」事業の協定第一号締結
3月	本社地区富士山育林ボランティア活動拡大
5月	中国・四川大地震被災地支援
6月	中津川市「根の上 生きた自然公園」づくり協定締結
6月	岩手・宮城内陸地震被災地支援
2009年4月	静岡製作所・里山保全プロジェクト参加
2010年3月	チリ地震被災地支援
4月	中国青海省大地震被災地支援



社会福祉

誰もがいきいきと暮らせる社会をめざして、障がい者の方への支援・基金活動や高齢者の方への医療支援など積極的に取り組んでいます。

地球環境保護

省エネルギー・省資源・リサイクルなど、企業活動の全ステージにおいて地球環境への配慮を忘れることなく、きめ細かい活動を続けています。

科学技術振興

次世代の新技术を担ってゆく若い人たちの向学心や探求心を伸ばすために、中学・高校生の表彰や奨学金支給などで応援しています。

地域貢献

心安らぐ地域づくりのために、ボランティア活動や独自のコミュニケーション活動を全国の事業所で展開しています。

文化・スポーツ

毎日を楽ししくしてくれたり、生活に喜びをくれる、文化やスポーツ活動は、国境や言葉の垣根を超えて広がっていきます。

災害支援

災害時の支援について

社会福祉



米国三菱電機 室内ゴルフ大会(米国)

2008年10月9日(木)から11月7日(金)の間、全米の米国三菱電機各社で、三菱電機米国財団主催の「三菱電機室内ゴルフ大会」が開催され、1,000名を超える従業員が参加し、US \$ 51,000もの寄付金が集まりました。

「室内ゴルフ大会」は2003年から始まったもので、エンジニアなどの従業員自らが各専門性を活かしてコースを設計し、ハロウィーンやゲームを形取ったコースなどもあります。優れたコースには「最優秀デザイン賞」を授与しており、2008年は「ゴジラin東京」が受賞しました。

また「最高額寄付賞」も授与され、取引先からの寄付分も合わせてUS \$ 10,000を寄付した会社もありました。ユニークな点としては、若い障がい者を招待し、一緒にプレーしていることであり、「手軽にできるこの競技に若いアスリートを招待できて光栄です」とホスト役を務めた社長自らが挨拶をし、大会を盛り上げました。



障がい者スケートへの支援(アメリカ)

米国三菱電機財団を通じて障がい者のスケートによる身体訓練を支援しております。

スケートによる障がい者の体力強化、平衡感覚の滋養を目的としてボランティアが障がい者と一体となって氷上で練習するものです。障がい者用に特殊な補助具(ウォーカー、ハーネス等)が使用されております。



三菱社会貢献連絡会「観劇の会」

三菱グループ企業で構成する三菱社会貢献連絡会では、一社では実現できないスケールの大きなプログラムを実施すべく、積極的な活動を行っています。

2005年度は、9月11日(日)にペルーのヒューゴ&イネスによるパントマイムショー「ショートストーリーズ」の公演を独自に企画・開催し、児童養護施設の子ども達や聴覚障がいの子ども達、母子支援施設入居者など約450人を招待しました。



ハートフル海外旅行(稲沢)

三菱電機稲沢ボランティア会では、平成11年から障がい者とその介護者による海外旅行を支援。旅行には当社社員もボランティアとして同行しました。



リングプルを集めて車椅子を贈ろう(北海道)

北海道支社では2002年6月からアルミ製リングプル(缶ジュース・ビール等のプルタブ)を集めて車椅子に交換、地域の福祉協議会に寄付する活動に参加しています。



紅菱会 軽音楽部 JAZZバンド<ミュージック・ラブ>のボランティア活動(兵庫)

昭和48年(1973年)結成の紅菱会(伊丹地区文化体育活動)軽音楽部は音楽を通し社会貢献活動を行なっています。

養・介護施設慰問や地域行事への出演依頼があり、知的障がい者通所授産施設のふれあいカーニバルに出演しました。

イケてる音楽を聞かせてくれたと評判で、次の訪問を今から心待ちにされています。





花壇維持・管理活動「三菱電機グループ・花ボランティア」(広島)

中国支社では、広島市が策定した「広島市緑の基本計画(グリーン・パートナー事業)」に賛同し、2006年から広島市中心部を東西に走る、通称「平和大通り」沿いに設けられている花壇の維持管理活動を行っています。十数名のボランティアグループで発足した活動も、現在は関係会社にも輪を広げ、「三菱電機グループ・花ボランティア(通称名:花ボラ)」として活動を行っています。主な活動内容は、毎週水曜日の昼休憩や定時後を利用して花壇への水やり、除草、花ガラ摘みなどの活動のほか、半年に1回、支社長をはじめ幹部社員、社員家族も参加し、花苗の植替え作業も行っています。今後も、地球環境を保護し、子どもたちの未来を守るため、この活動を拡大、継続していきたいと思



花苗植替参加メンバー／2008年11月29日

「瑞ヶ池公園の桜を育てる会」兵庫県緑化等功労者表彰受賞(北伊丹)

皇太子殿下ご臨席のもと兵庫県立有馬富士公園で開催された「第29回全国育樹祭」において、「瑞ヶ池公園の桜を育てる会(北伊丹地区北師会、班長自主研、OB会、社員有志で構成)」が、20年にわたる緑化推進活動を評価され、緑化等功労者表彰を受けました。



メダカの学校も始業式(福岡)

事業所の構内を流れる旧・松本川の土手に土筆(ツクシ)が顔を出す頃、川の中では“メダカの学校”が始まっています。雨水と工場排水しか流れてこないこの川に生息しているメダカは、事業所の工場排水の安全性や環境に対する取り組みをますものとして地元新聞に「三菱メダカ」と紹介されました。



クリーンアップ作戦(伊丹)

「ポイ捨てしない三菱マン、きれいな町好き三菱マン」を合い言葉に、毎月1回(日曜日)最寄り駅から事務所までを清掃しています。

この活動に対して「尼崎市コミュニティー活動功労者賞」を授与されました。



第24回工場緑化推進全国大会「経済産業大臣賞」受賞(福岡)

(財)日本緑化センター主催の第24回工場緑化推進全国大会において、パワーデバイス製作所が経済産業大臣賞を受賞しました。

この賞は工場の緑化を積極的に推進し、工場内外の環境整備に顕著な功績があった工場を表彰するもので、平成17年度は熊本工場を含め、全国で6つの工場が表彰を受けています。





ユニバーサル技能五輪国際大会(静岡)

2007年11月、静岡県において「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」が、従来の「技能五輪国際大会」と「国際アビリンピック」を初めて同時開催するカタチで挙行されました。「技能五輪国際大会」は、職業訓練の振興と技能水準の向上を目的として世界の若者が技能を競う国際大会。「国際アビリンピック」は、障がい者の職業的技術の向上や障がい者に対する社会一般の理解の増進を図る目的として、障がい者が技能のレベルを競う国際大会です。当社は、この国際大会の趣旨に賛同し協賛いたしました。



地域貢献



芝桜植栽ボランティア活動(群馬)

太田市社会貢献活動連絡協議会の呼びかけで、地元尾島地区に建設中の「利根備前島水質浄化センター」の敷地に市民・地域住民の憩いの場を作る計画に協賛し、45,000本の芝桜植栽活動に参加しました。植栽作業は上州名物「からっ風」の寒風吹きすさぶ中、商工会や中学生等とともに1人1区画(1m²)100株を懸命に植え込みました。(2008年3月8日)



「子供がん基金」とのクリスマスパーティー(シンガポール)

2008年12月6日、三菱電機アジアは、クイーンズタウン・コモンウェルズ町内会と共同で、「子供がん基金」が支援している子供達とのクリスマスパーティーを開催しました。この子供達は余り裕福ではない家庭の子供達で、日夜、病気と薬の副作用と闘っています。

子供達は入口でプレゼントを貰い、さらにラッキードロー(抽選)で贈り物を貰いました。これらの贈り物は、クリスマスの日でも恵まれない人たちに、何かをしてあげたいという従業員からの贈り物でした。当日、子供達は多くのクリスマスプレゼントを貰い大喜びで、満面の笑顔と共に家に帰って来ました。



日本語教育支援(台湾)

三菱電機台湾とグループ各社は、2008年5月に開催された「全国大学生・日本語弁論大会」の sponsor となり、台湾における日本語教育の支援を行いました。15の大学と高専からの参加者が、流暢な日本語で熱弁をふるいました。

三菱電機台湾は、台湾における主要な日系企業の一社として、日本語の専門家の育成を支援しています。



演奏会でスマトラ島沖大地震の募金呼びかけ(神奈川)

鎌倉芸術館にて三菱電機ソシオテックウインドオーケストラの演奏会が開催されました。会場において、2005年に発生したスマトラ島沖地震への募金を呼びかけたところ、230,556円のご賛同をいただき、「三菱電機ソシオテックウインドオーケストラ定期演奏会来場者一同」の名義にて日本赤十字社を通じて寄付しました。

ご賛同いただいた皆様に、あつく御礼を申し上げます。





10周年を迎えた「ジュニアバスケットボールクリニック」(仙台)

少年選手のバスケットボール技術の向上・人材育成のため、日本リーグのコーチ・選手を指導者として招き、仙台市の小中学生・知的障がい者の方(全209名)を対象にバスケットボール教室を実施しました。2005年で10回目を迎え、宮城TV放送でも特別企画番組が放映されました。

3グラムのピンポンボールに子供達の思いを乗せて！(長崎)

長崎県で卓球クラブに所属する有志は、会社休日の土曜・日曜・祝祭日に地元中学校の指導を行っています。

初心者の子供達に基本動作から指導し、最近では応用技術もできるようになりました。練習の成果として出場した大会では、子供達のプレイと成長に父兄および顧問の先生共々喜びを感じ、更にもう一歩上を目指すために練習に取り組んでいます。



災害支援



岩手・宮城内陸地震の被害に対する支援について(東北)

三菱電機株式会社は、2008年6月14日(土)に発生した岩手・宮城内陸地震被害への支援として、三菱電機株式会社で総額500万円の支援を行いました。

三菱電機 中国・四川大地震の被害に対する支援について(中国)

三菱電機グループは、2008年5月12日(月)に発生した中国・四川大地震被害に対する支援として、総額約5,000万円(救援物資の提供を含む)の緊急支援を行いました。

新潟県中越沖地震の被害に対する支援について(新潟)

三菱電機は、2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震被害に対する支援として、総額1,000万円(救援物資の提供を含む)の緊急支援を行ないました。

能登半島地震の被害に対する支援について(能登半島)

三菱電機は、2007年3月25日に発生した能登半島地震被害に対する支援として、石川県に義援金100万円、救援物資として洗濯機20台と乾燥機10台を提供致しました。

福岡県西方沖地震における義援金・物資の寄贈(福岡)

2005年3月20日に発生した福岡県西方沖地震で特に被害が大きかった玄界島被災住民の方々の仮設住宅向けに、義援金百万円と義援物資(洗濯機50台)を福岡市に寄贈しました。これを機に防災対策を強化し、その対策の一つとして防災用品(ヘルメット、毛布、飲料水他)の社内配付を実施しました。



社を代表して、新潟県中越地震のお見舞いを贈呈(新潟)

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震に際しては、当社として1,000万円の義援金および石油ファンヒータ400台を、新潟県災害対策本部に対し贈呈しました。また、三菱電機ソシオールーツ基金は、社員からの寄付1,174万円と同額をマッチングさせ2,348万円を寄贈しました。

